

小樽市新総合体育館ニュースレター

Vol.03

新総合体育館の整備事業費について

今回は、新総合体育館の整備に係る費用や小樽市の負担についてお知らせします。

整備事業費について

総合体育館の建替えには、設計や建設工事のほか、現総合体育館を解体する費用が必要です。今回、計算した事業費の総額は、91億6,700万円で内訳は下の表のとおりです。

(百万円)

内訳	金額
本体工事	7,205
設計・監理	352
外構工事	258
仮設駐車場整備	177
現総合体育館の解体・撤去	338
備品	38
計(税抜き)	8,368
計(税込み)	9,205
入札を開始するまでの物価変動分を加算(+2.7%)	9,454
デザインビルド方式による削減効果分を減算(▲3%)	9,167

上の表の下から二段目の加算は、事業費を計算した時点から実際に入札(事業者の募集)を開始するまでの物価の変動分を予測し、事業費を修正するものです。そして、表の一番下の減算は、今回の事業の発注方式(デザインビルド方式)によって事業費が圧縮された分を補正するものです。

なお、デザインビルド方式とは、通常、市が行う工事は設計や建設工事などを別々に契約するのに対して、これらの契約を一括で契約することにより効率化を図り、事業費を圧縮する方式で、今回、市として初めて採用しました。

Q&A

Q 物価が高騰しているけど、今後、費用が増えていくことはないの？

A 物価高騰が続けば、影響はあります。今回採用した事業方式は、設計・建設などを一括して契約しますが、事業期間が長期に渡るため、それぞれ着手する時期に一定額以上の物価高騰に対しては、事業費の見直しをする必要があります。

Q&A

Q 総合体育館は小樽市の建物なので、建替えの費用はすべて市が支払うことになるの？

A 全額を市が負担するわけではありません。国からの補助金や市債(借入金)を活用することで、市の支払を減らすことができます。次で詳しく説明します。

小樽市の負担について

今回、事業を実施するに当たって、市では、国の補助金と市債を活用する予定で、現時点で想定している内訳は下の表のとおりです。(金額はあくまで想定です。)

(百万円)

総事業費	財源		
	国の補助金	市債	一般財源
9,167	3,104	5,765	298

表について説明しますと、総事業費91億6,700万円に対して、国の補助金を31億400万円、市債を57億6,500万円と想定しています。また、補助金や市債の対象とならない費用2億9,800万円は一般財源からの負担として、市が直接支払います。

市債については、後年度、返済をしていくことになりますが、市債の種類によっては、この返済額に対して、国が地方交付税として一部を返還してくれる制度がありますので、こうした市債を活用することにより、より負担を軽減することができます。

Q&A

Q 総合体育館の建替え費用は、開業後の使用料収入で回収することができるの？

A 新総合体育館が開業すると、今度は毎年、維持管理運営費がかかります。この費用は、設計図を描いてから試算することになりますが、現総合体育館でも年間約7,000万円かかっている一方で、収入は約1,350万円であり、支出に対する割合は約20%です。新総合体育館では、設備が一新され入館者増が期待できますが、利益を出すまでには至りません。こうしたことから、様々な工夫により入館者を増やすことや、運営の効率化により少しでも市の支出を減らすことが大切と考えています。

